

第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと 創生総合戦略

総括レポート

令和7年10月20日

目次

1. 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り……3
2. 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績………3
3. 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果………5
4. 総合戦略推進アドバイザーからの意見……………6
5. 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括………7

1. 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り

第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、美濃加茂市第6次総合計画のまちづくり宣言(前期基本計画)の一つである「女性若者活躍」の実行計画として位置づけ、また、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)に基づく美濃加茂市女性活躍推進計画に位置づけることで、人口減少問題の克服をめざす取組を実施した。

令和2年度から令和6年度の5か年を計画期間とし、重要業績評価指標(KPI)の達成状況および事業の取組がもたらした成果について、庁内の関係部署による評価の結果を踏まえ、学識経験者やその他専門的知見を持つ「総合戦略推進アドバイザー」の提言・助言を受けながら、効果検証を行った。

2. 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績

○ステージごとのKPI実績(各年度)

ステージ 【目標値】	KPI	現状値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	評価
ライフスタイル 【75%】	充実したライフスタイルを送る女性の割合を63.6%から75%に増やします	63.6%	63.3%	63.7%	54.9%	61.7%	56.2%	D
出会い・結婚 【600件】	婚姻件数(年あたり600件)を維持します	600件	482件	524件	531件	507件	508件	D
妊娠・出産 【500人】	生まれる赤ちゃんの数(年あたり500人)を維持します	522人	470人	450人	407人	421人	360人	D
子育て 【1.75人】	子どもを持つ世帯の平均子ども数1.75人を維持します	1.75人	1.75人	1.75人	1.75人	1.75人	1.75人	C
教育 【40%】	女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合を20%から40%に増やします	20%	8.9%	8.9%	12.5%	12.0%	12.8%	D

※各政策 KPI の結果について、以下のとおり達成率を算出し、評価を記載しました。

達成率は過去の現状値から目標値に向けて、現在の実績値がどの程度進捗したかを示す指標です。具体的には「H30年度の現状値」をスタート地点とし、「R6年度目標値」をゴール地点に設定したうえで、R6年度時点における実績値がその間の目標達成に向けてどれだけ進んだのかをパーセンテージ(%)で表します。

達成率(%) = $\{(R6\text{実績値}-H30\text{現状値}) \div (R6\text{目標値}-H30\text{現状値})\} \times 100$

A評価: R6目標値をR6実績値が上回った(達成率が100%以上)

B評価: H30現状値に対して R6実績値が向上した(達成率が50%以上100%未満)

C評価: H30現状値に対してR6実績値がやや向上または維持した(達成率が0%以上50%未満)

D評価: H30現状値をR6実績値が下回った(達成率が0%未満)

「ライフスタイル」…数値の増減はあるが、戦略の開始初年度と同等の数値を維持している。今の暮らしにおおむね満足していると評価していただいているものと考える。

「出会い・結婚」…目標値には達していないが、戦略の開始初年度と同等以上の数値を維持している。マッチングアプリなど、時代の変化に伴い、出会いを創出する新たなツールが利用されている。

「妊娠・出産」…新型コロナウイルス感染症の影響、全国的な少子化の影響もあり、出生数は減少傾向となっており、本市も同様の傾向である。

「子育て」…目標値を達成しており、今後も維持できるよう事業を推進する。

「教育」…目標値に達していないが、令和6年度の市民満足度調査において、10代女性からは実績値以上の割合で女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられると評価していただいている。どの年代にも評価いただけるように効果的な事業を継続する。

カミーノアクションプランの進捗結果について

○令和2年度～令和6年度実績(カミーノアクションプランの進捗結果)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
KPI 数	44	45	45	46	46
KPI 達成数	17	18	16	23	25
KPI 達成率	38.6%	40.0%	35.6%	50.0%	54.3%

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、当初予定していた事業が実施できなくなる等の影響を受けた。新型コロナウイルス感染症による影響が今後も続くことや、新しい生活様式へと変化していくことを見越し、令和3年度、4年度は、新たなニーズの把握、事業の適正な目標値の設定、手法の見直しを行う必要があったため、イベント等のオンライン開催や対象者の限定、会場の変更などによって、可能な限り事業を実施したことにより、目標値に近

づく事業が増えたが、成果につなげることは難しかった。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行によって、流行は続き不安がある中ではあるが、イベントの開催など実施できる機会が増えたことで、KPI 達成率が上昇した。しかし、「新型コロナウイルス感染症による影響をまだ感じる」という事業担当課からの意見もあり、流行前の状態に完全に戻ったとは言い難い状況であった。令和6年度は、KPI 達成率の大きな上昇はみられなかったものの、各事業の KPI 実績値は、令和2年度の実績値と比較すると、目標値に近づいていた。また、新型コロナウイルス感染症の影響がほぼ無くなり、イベント、教室等の集客に関する事業が感染症流行以前のように展開ができたが達成率は54.3%にとどまった。

※各事業の実績については、別紙参照。

3. 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果

○自立持続可能性自治体に選出

民間の有識者で構成される「人口戦略会議」において、同会議が、令和5年12月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した地域別将来推計人口をもとに、20代から30代の女性の数、若年女性人口の減少率を市区町村ごとに分析した結果、本市は「※自立持続可能性自治体(A評価)」に選出された。

※移動仮定、封鎖人口ともに若年女性人口の減少率が20%未満の自治体。100年後も若年女性が5割近く残存しており、持続可能性が高いと思われる自治体。1729自治体中65自治体が選出。

○2024年（2023年）

転入超過数:150人（298人）
転入超過率:0.26%（0.52%）

総務省による統計調査の結果、2024年の転入超過数において、本市は県内で一番多い150人と公表されました。転入超過率(転入超過数÷人口)においても、県内で上位の結果となった。

自治体名	転入超過数	自治体名	転入超過率
美濃加茂市	150人	富加町	1.35%
岐南町	98人	坂祝町	0.61%
安八町	80人	安八町	0.57%
富加町	78人	岐南町	0.37%
坂祝町	50人	美濃加茂市	0.26%

○2020年を基準とした2050年までの人口減少率:4.8%

国立社会保障・人口問題研究所が公表した、2020年を基準とした2050年までの人口減少率において、本市は県内で一番低い4.8%という結果が公表された。

本市は、2035年ごろをピークに人口が減少傾向に転じると推測される。

4. 総合戦略推進アドバイザーからの意見

日程	令和6年9月2日(火)～9月18日(木)
場所	美濃加茂市役所及び訪問先
委員	<p>【産】(株)フジイ 代表取締役 金森 薫氏 【労】(株)濃飛葬祭 代表取締役 鈴木 哲馬氏 【学】中部学院大学短期大学部幼児教育学科 教授 杉山 祐子氏 【学】元可茂教育事務所所長・元太田小学校校長 三尾 不二男氏 【学】元加茂高等学校校長 平野 弘氏 【金】東濃信用金庫美濃加茂支店 支店長 佐藤 幸一氏 【言】(有)コニー 代表取締役 伊佐治 栄子氏 【言】みのかもフリーペーパー歩好里人 代表 安藤 摩里氏 【国】のぞみ教室 主任指導員 藤木 燐斗良 春美氏</p>
事務局	経営企画部 企画課

○第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績と総括について

アドバイザーと面談し、第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度の実績と総括に関して意見をいただいた。

【アドバイザーからの意見】

○子育てについて

- ・少子化の原因として、物価向上や、実質賃金のマイナスなど、経済的な理由から第2子、第3子を産む考えに踏み切れない。また、核家族化や共働き世帯が増加していると思うが、第2子、第3子の保育料無料、手厚いフォロー、さらには女性が働きやすくならないと少子化の流れは止まらないと思う。経済的に余裕が生まれることで、第2子、第3子へとつながってくる。
- ・子育ての大変さばかりが様々な媒体でピックアップされていると感じる。そういった影響も少子化につながっていると考える。
- ・子育ての大変さや不安ばかりにスポットがあてられているが、お金だけではない支援も必要である。精神的な部分でのケアや子育て世代が集う場所の提供など、市民に寄り添った支援が必要である。
- ・働くために預けるのではなく、預けるために働くということになっていて、子育て世代が仕事で忙しすぎる。その影響で、乳幼児学級の参加者が減少し保護者の横のつながりが薄れている。

○女性活躍について

- ・企業では、女性社員の活躍が多く見られ、今は当たり前に女性が活躍する時代になっている。
- ・第2期総合戦略で女性活躍にスポットを当てたことはとても良かった。
- ・最近の高校生は女子生徒の動きが活発になってきていると感じ、体育祭や生徒会活動でも女子生徒が自発的に手を挙げるなど、女性活躍が当たり前になってきている。

- ・今後さらに女性活躍を推進すると、地元への定着率の向上が期待できる。

○事業者について

- ・美濃加茂市は事業者意欲も高く、活気のあるまちであると感じている。商工会議所の会員数も増加しており、事業者間のつながりも強い。
- ・現在、どこの企業も人手不足である。最低賃金が上がっても扶養から外れないように働くため勤務時間が短縮され、企業側には痛手となっている。
- ・企業は事業の継続や拡張の面で人材確保に苦労している。また、外国人労働者が帰国してしまう場合もあり、対応が課題となっている。

○多文化共生について

- ・可児市には外国人向けの交流拠点があり、多文化共生を進めている。美濃加茂市にも外国人が気軽に相談できる場所が必要だと考える。
- ・美濃加茂市は多文化共生の分野で長年の実績と経験があり、他の自治体にない強みを持っている。

○その他

- ・第2期総合戦略の成果を市民と市職員が誇りに思うべきであり、第3期総合戦略も自信を持って進めるべきである。
- ・第2期総合戦略は新型コロナウイルス感染症から始まり、市民生活の大きな変化を与え、いろいろな経験もしてきた。今後の事業は10年、20年先を見据えたものにすべきである。
- ・子どもたちに地元への愛着を高め、「感覚的に良い」と感じてもらえる施策が必要である。
- ・東海環状自動車道西回りルートが開通し、人の交流が増えた。市の魅力向上にはショート動画やSNSを活用することも良い手段である。
- ・美濃加茂市は災害が少ないと感じるが、地震や水害などの安全面についてデータを収集し、市の強みとして推しても良いのではないか。
- ・新型コロナウイルス感染症を経て、オンライン会議が増えるなど生活スタイルが変化した。
- ・新型コロナウイルス感染症で様々な業種がデジタル活用を進めるようになった。

5. 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括

計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、思うように事業を実施できなかった面もあるが、工夫して一つひとつ丁寧かつ確実に事業を実施することで、着実に人口が増加してきた。特に、20代、30代の女性においては、転入超過(2024年実績)になるなど、「女性の活躍」に注力して推進してきた総合戦略が評価され、効果として数字に表れたのではないかと考察する。

また、日本全国で人口が減少しており、本市においても出生数が減少している状況から、少子化に歯止めをかけるため、これまでの取組を振り返り、ブラッシュアップすることにより、効果的な事業展開を図る必要がある。

第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「教育」に関する分野に注力し、本市の魅力的な自然や歴史、文化などを生かした他自治体にはない本市ならではの政策を推進することで、ふるさとへの誇りや愛着を高めることとする。これにより、市内にとって「住みやすく住み続けたい魅力あるまち」であるとともに、市外から「住んでみたいまち」として認識され、若い世代の定住を図り、広く市外へも本市の魅力を伝え、転入を促進する。